
2011 年度（平成 23 年度）

事業報告書



平成 24 年 5 月 25 日

学校法人 玉手山学園

I. はじめに

経営理念とビジョン 第2期(2013~2017) 学園中長期計画策定

2011年(平成23年)秋に、学園「経営理念とビジョン」を新に策定いたしました。ビジョンの第一番目には、「豊かな心の育成」を掲げました。その出発点は志(夢をもつこと)、笑顔、あいさつ、優しさです。それはまず教職員が学生・生徒・園児たちの前で自らの夢を語ること、教職員自身の生きざま、その背中を見せることから始まります。これが私たちの教育の基本姿勢です。この「経営理念とビジョン」の具現化を期し、各学校園が2012年(平成24年)3月に第2期(2013~2017)中長期計画を策定いたしました。2012年の学園創設70周年を機に、次のステージに向けて学園全教職員がそれぞれの役割を果たし、目を輝かせ夢を語り合う学園を学生・生徒・園児たちとともに創り上げてまいります。

女川高校と祈念の合作、東日本大震災被災地訪問「圧倒的無力感」から

2011年3月11日、東日本大震災が発生、想像を絶する惨状に誰もが「自分でも何かできないか」と思いました。本校の高校生たちは女川高校(宮城県)の生徒たちと祈念のオブジェを合作、通い合う豊かな心と達成感(やればできる!)を実感しました。また Fukka の学生は被災地を訪問し、激甚災害地区をゆっくりと歩き「圧倒的無力感(自分になんか何ができる)」と「向上心(何かできるはず)、夢(あんなソーシャルワーカーになりたい)」を得ました。若者は心に響く感性、優しさ、素晴らしい能力を持っています。若者は未来社会の宝物です。

大学に保健医療学部リハビリテーション学科、

短期大学に医療秘書学科 開設(2011年4月)

学園70周年を機に、さらなる学園の発展向上、社会のお役に立ちたいと願い、大学に保健医療学部リハビリテーション学科、短期大学に医療秘書学科を開設しました。大学4号館(新校舎)も2011年5月に竣工しました。また、ご縁あつての玉手山学園ファミリー、一層、学園・地元を好きになってもらいたいと願い、種々の70周年記念“行事”も企画、実践いたしました。

平成23年度も、「社会に貢献し必要とされる魅力ある学園を目指す」という運営基本方針のもと、教育活動に誠実に邁進してまいりました。学園の総力を結集させて遂行した平成23年度の教育事業を以下にご報告いたします。

平成24年5月25日

理事長 江端源治

建学の精神「感恩」

人はみな有形無形の数々の恩恵を享受し、今の自分がある。この偉大なはからいに目覚め、深い感動と感謝の念から発する豊かな心と情熱をもって、人の幸せを願い行動するとき、われわれは社会に貢献することができる。

～「ありがとう」に出会い気づき、感動・感謝の行動から、
また新しい「ありがとう」が生み出されていく～

学園の使命

建学の精神「感恩」を体し、人間の絆に目覚め、高い志を持ち社会に貢献し得る人材を育成し、幸福・平和で豊かな社会の構築に寄与する。

学園の各校園はこの使命達成に向け、それぞれの教育理念・目的のもと具体的な教育目標を掲げ総力を結集する。

学園職員の責務

教育人として

- ・人類の未来を拓く「知」の継承・伝達と創造・発展に努め、次代を担う有為な後継者を育成する
- ・「教育力の向上」に努め、「良質の教育サービス提供」に徹する
- ・学生、生徒、園児の持てる力をひきだし、伸ばし育てる
- ・学園に学ぶものに「入学してよかった、卒業してよかった」の満足感をもたらす
- ・教育人としての自覚のもと、喜びと誇りを持ってその責務・使命の遂行に情熱を燃やし、自己の能力および人格の向上に努める

組織人、私学人として

- ・学園および各校園の使命、経営方針、教育目的・目標の理解・堅持に努め、その達成に貢献する
- ・組織人としての自覚、連携・協調を重んじ自己の責務・役割を果たす

平成 23 年度 学園運営基本方針

社会に貢献し必要とされる魅力ある学園を目指す

～確かな「教育力」と「情熱」が誇り～

1. 学園の使命、各校園の教育目的の共有・実践
建学の精神「感恩」の定着 各校園の教育目的・目標の再確認
2. 学生・生徒・園児を伸ばし育てる ～満足度関西一～
愛情、責任をもって関わり鍛え
「入学してよかった、卒業してよかった」の満足感につなぐ
3. 「教育力」の向上、「学園教職員魂」の高揚
教職員の資質・能力、人格の向上
教育に情熱のない教職員に接しられる学生は不幸である
4. ころ豊かな学風の確立、学校愛・母校愛の醸成
高い志、笑顔、あいさつ、心優しいマナーの推進
目が輝き、夢が語り合える学園に
5. 「学び」を支える教育環境、施設・設備等の充実
6. 継承・発展と改革を支える健全な財政基盤の確立・堅持
7. 各校園の相互尊重、信頼、扶助(学園ファミリー意識)

II. 法人の概要

1. 沿革

年月日	沿革
昭和17年 3月	財団法人山田学園認可 玉手山高等女学校 設置認可
昭和22年 4月	玉手山中学校 設置 玉手山女子専門学校 設置
昭和23年 4月	学制改革により玉手山高等学校と改称
昭和25年 3月	玉手山女子専門学校 廃止
昭和26年 3月	学校法人玉手山学園に組織変更
昭和40年 3月	玉手山中学校 廃止
昭和40年 4月	玉手山女子短期大学 家政科・保育科 開設 玉手山女子短期大学附属幼稚園 開設
昭和41年 10月	玉手山女子短期大学を関西女子短期大学に改称 玉手山女子短期大学附属幼稚園を関西女子短期大学附属幼稚園に改称
昭和42年 4月	関西女子短期大学 保健科 設置
昭和45年 4月	関西女子短期大学附属歯科技工士学院 開設 (昭和56年関西女子医療技術専門学校へ移行)
昭和49年 3月	関西女子短期大学 家政科 廃止
昭和49年 4月	玉手山高等学校を関西女子短期大学附属高等学校に改称
昭和56年 4月	関西女子短期大学附属歯科技工士学院を改組の上、関西女子医療技術専門学校医療秘書学科開設
平成4年 4月	関西女子医療技術専門学校 ビジネス秘書学科 設置
平成7年 3月	関西女子医療技術専門学校 歯科技工士学科 廃止
平成7年 4月	関西女子医療技術専門学校 理学療法学科 設置
平成8年 4月	関西女子医療技術専門学校 作業療法学科・介護福祉学科 設置 関西女子医療技術専門学校 医療秘書学科とビジネス秘書学科を統合し、医療ビジネス学科に改称
平成9年 4月	関西福祉科学大学 社会福祉学部社会福祉学科 開設
平成10年 4月	関西女子短期大学附属高等学校を関西福祉科学大学高等学校に改称 関西女子医療技術専門学校を関西医療技術専門学校に改称し、男女共学実施
平成11年 4月	関西福祉科学大学高等学校 特別進学コースのみ男女共学実施
平成13年 4月	関西福祉科学大学大学院 社会福祉学研究科臨床福祉学専攻 設置 関西女子短期大学 福祉栄養学科 設置 関西医療技術専門学校 介護福祉専攻科 設置
平成15年 4月	関西福祉科学大学 社会福祉学部臨床心理学科 設置 健康福祉学部健康科学科・福祉栄養学科 設置 関西福祉科学大学大学院 社会福祉学研究科臨床福祉学専攻 (後期課程) 設置 社会福祉学研究科心理臨床学専攻 設置
平成16年 3月	関西女子短期大学 福祉栄養学科 廃止
平成17年 4月	関西女子短期大学 歯科衛生学科 (3年制) 設置 関西福祉科学大学高等学校 特別進学Ⅰコース、特別進学Ⅱコース、総合進学コースの3コース制導入
平成18年 4月	関西医療技術専門学校 医療ビジネス学科を診療情報管理学科・診療情報管理専攻科に改組
平成21年 3月	関西医療技術専門学校 介護福祉専攻科 廃止
平成22年 4月	関西福祉科学大学 特別支援教育専攻科 設置
平成23年 3月	関西医療技術専門学校 診療情報管理専攻科 廃止
平成23年 4月	関西福祉科学大学 保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻・作業療法学専攻 設置 関西女子短期大学 医療秘書学科・医療秘書学専攻科 設置

2. 設置する学校

学校名	学部・学科・専攻等		開設年度
関西福祉科学大学	社会福祉学研究科	臨床福祉学専攻（博士前期課程）	平成13年
		臨床福祉学専攻（博士後期課程）	平成15年
		心理臨床学専攻（修士課程）	平成15年
	社会福祉学部	社会福祉学科	平成9年
		臨床心理学科	平成15年
	健康福祉学部	健康科学科	平成15年
福祉栄養学科		平成15年	
保健医療学部	リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	平成23年	
	特別支援教育専攻科	平成22年	
関西女子短期大学	保育科	昭和40年	
	保健科	昭和42年	
	歯科衛生学科	平成17年	
	医療秘書学科	平成23年	
	医療秘書学専攻科	平成23年	
関西福祉科学大学高等学校	全日制課程普通科	昭和17年	
関西女子短期大学附属幼稚園		昭和40年	
関西医療技術専門学校	医療専門課程	理学療法学科	平成7年
		作業療法学科	平成8年
	社会福祉専門課程	介護福祉学科	平成8年
	商業実務専門課程	診療情報管理学科	平成18年

3. 学生・生徒・園児数の状況

< 関西福祉科学大学 >

(単位：名)

研究科・学部・学科・専攻科	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	H23年度在籍者数(現員)				H22年度 卒業生数			
				H23.5.1							
				1年生	2年生	3年生	4年生				
社会福祉学研究科	臨床福祉学専攻(博士前期課程)	20	0	40	8	12		11			
	臨床福祉学専攻(博士後期課程)	3	0	9	3	4	5	2			
	心理臨床学専攻(修士課程)	10	0	20	11	15		11			
大学院 計				33	0	69	22	31	5		24
				58							
社会福祉学部	社会福祉学科	240	40	1,040	176	186	206	289	315		
	臨床心理学科	100	20	440	57	69	109	138	123		
計				340	60	1,480	233	255	315	427	438
				1,230							
健康福祉学部	健康科学科	90	10	380	79	66	72	86	111		
	福祉栄養学科	80	5	330	87	85	74	95	82		
計				170	15	710	166	151	146	181	193
				644							
保健医療学部*	リハビリテーション学科	120	0	480	130	—	—	—	—		
	理学療法学専攻	80	0	320	87	—	—	—	—		
	作業療法学専攻	40	0	160	43	—	—	—	—		
計				120	0	480	130	—	—	—	—
				130							
大学 計				630	75	2,670	2,004			631	
特別支援教育専攻科	40	0		9					10		

(「平成23年度学校基本調査(平成23年5月1日現在)」より)

※保健医療学部は平成23年4月開設(実質収容定員120名)

< 関西女子短期大学 >

(単位：名)

学科	入学定員	収容定員	H23年度在籍者数(現員)			H22年度卒業生数
			H23.5.1			
			1年生	2年生	3年生	
保育科 ^{※1}	100	200	72	85	86	
保健科 ^{※2}	40	80	40	86	76	
歯科衛生学科	100	300	111	85	105	
医療秘書学科 ^{※3}	60	120	69	—	—	
短大 計	300	700	292	256	105	
			653			252
医療秘書学専攻科 ^{※3}	10	—	3	—	—	

(「平成 23 年度学校基本調査 (平成 23 年 5 月 1 日現在)」より)

※1 平成 23 年 4 月より入学定員変更 (130→100)

※2 平成 23 年 4 月より入学定員変更 (70→40)

※3 平成 23 年 4 月より新設

< 関西福祉科学大学高等学校 >

(単位：名)

学校名	入学定員	収容定員	H23年度在籍者数(現員)			H22年度卒業生数
			H23.5.1			
			1年生	2年生	3年生	
関西福祉科学大学高等学校	240	720	214	175	182	
高校 計	240	720	571			178

※入学定員は入学募集定員にて示す (学則上の入学定員 470 名)

< 関西女子短期大学附属幼稚園 >

(単位：名)

学校名	入学定員	収容定員	H23年度在園児数(現員)				H22年度卒業生数
			H23.5.1				
			最年少	年少	年中	年長	
関西女子短期大学附属幼稚園	—	495	0	115	136	122	
幼稚園 計	—	495	373				158

※最年少は満 3 歳児クラスを示す

< 関西医療技術専門学校 >

(単位：名)

課程・学科・専攻科		入学定員	収容定員	H23年度在籍者数(現員)			H22年度卒業生数
				H23.5.1			
				1年生	2年生	3年生	
医療専門課程	理学療法学科	0	80	—	38	33	30
	作業療法学科	0	80	—	40	30	15
社会福祉専門課程	介護福祉学科	0	40	—	20	—	16
商業実務専門課程	診療情報管理学科	0	60	—	10	—	7
専門学校 計		0	260	171			68

4. 役員・教職員の人数

(1) 役員 (単位：名)

役員、評議員	定員数	現員
理事	8～10	9
監事	2～3	2
評議員	21～25	24

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

(2) 教職員数 (単位：名)

学校名	教員		職員	
	専任(本務)	兼務	専任(本務)	兼務
関西福祉科学大学	107	95	66	49
関西女子短期大学	35	65		
関西福祉科学大学高等学校	42	24	4	13
関西女子短期大学附属幼稚園	19	6	1	5
関西医療技術専門学校	13	32	9	6
法人	0	0	1	1
法人本部	0	0	18	11
合計	216	222	99	85

※兼務職員数は学生アルバイトを除いた人数にて示す (平成 23 年 5 月 1 日現在)

[専任教員内訳]

< 関西福祉科学大学 >

(単位：名)

学部・学科		大学設置基準上 必要な専任教員数		教授		准教授		講師		助教		助手		計	
		専任教員 (うち教授)	大学全体 (うち教授)	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
社会福祉学部	社会福祉学科	16 (8)	27 (14)	10	2	3	8	2	10	0	2	0	0	15	22
	臨床心理学科	10 (5)		8	1	2	5	0	4	0	0	0	0	10	10
健康福祉学部	健康科学科	10 (5)		7	1	1	2	2	4	0	0	0	0	10	7
	福祉栄養学科	10 (5)		7	1	4	3	0	1	0	0	0	0	11	5
保健医療学部	リハビリテーション学科	15 (8)		6	2	3	2	0	2	2	0	0	0	11	6
合計		61 (31)		27 (14)	38	7	13	20	4	21	2	2	0	0	57
		88 (45)													

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

< 関西女子短期大学 >

(単位：名)

学科	短大設置基準上 必要な専任教員数		教授		准教授		講師		助教		助手		計	
	専任教員 (うち教授)	短大全体 (うち教授)	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
保育科	8 (3)	5 (2)	2	2	1	3	0	1	0	0	0	0	3	6
保健科	4 (2)		3	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3	3
歯科衛生学科	6 (2)		1	4	0	1	0	2	0	0	0	3	1	10
医療秘書学科	4 (2)		1	2	0	2	0	1	0	3	0	0	1	8
合 計	22 (9)	5 (2)	7	8	1	8	0	5	0	3	0	3	8	27
	27 (11)													

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

< 関西福祉科学大学高等学校 >

< 関西女子短期大学附属幼稚園 >

< 関西医療技術専門学校 >

(単位：名)

学校名	専任教員数		計	
	男	女	男	女
関西福祉科学大学高等学校	30	12	30	12
関西女子短期大学附属幼稚園	4	15	4	15
関西医療技術専門学校	8	5	8	5

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

Ⅲ. 事業の概要（主な事業内容および進捗状況）

関西福祉科学大学

1. 大学の魅力発信

特長、強みを可視化、分かりやすく魅力的に簡明・感動の言葉で

3学部5学科1専攻科を主体に

- ・本学及び各学科の魅力、特長を確認、共有するため、学長をリーダーとする若手教職員10名による「Fukkaの素晴らしさWG」を編成し、学科の特長（魅力）や現況の掘り起こしを行った。これを各学科のキャッチコピーを含む「平成23年度版大学の魅力」としてまとめ、学内での情報共有を図るとともに、今後の各学科・各部署にて取り扱う広報用の基礎資料として活用している。

2. 教育目的・目標の共有、実践

まず教職員、そして学生

- ・教職員においては、大学の教育目的・目標を主要会議で唱和し、意識的に共有を図った。また、各学科の教育目的・目標については、教授会や学科会議において確認を行い共有した。
- ・教育目的・目標の達成に向けて、ゼミ・講義内容の工夫や教育支援体制の強化、カリキュラムの見直し等を行うとともに、ボランティア活動やインターンシップへの参加を奨励した。

3. 就職の向上

就職100%の実現

- ・学生支援センターにおいて、就職指導・支援として学科担当制による就職個別相談、学科別就職ガイダンス、ゼミ担当別個別相談、学科別模擬試験・講座等の就職支援を実施した。また、キャリアカウンセラーの活用や就職先（社会福祉法人・医療法人）への個別訪問による関係強化も行った。
- ・新たな就職支援の取組みとして、従来、一般求人情報と本学独自の求人情報は別個に管理されていたが、新規求人データベースの導入により両方を一元管理し、学生の立場に立った求人情報公開システムの運用を開始した。
- ・平成23年度卒業生の就職決定率は以下の通りである。（平成24年5月1日時点）

社会福祉学部 社会福祉学科： 97.9%

臨床心理学科： 92.4%

健康福祉学部 健康科学科： 98.6%

福祉栄養学科： 100%

全 体： 97.6% （※就職決定率=就職決定者÷就職希望者）

4. コース制（H22.4～）教育の推進

なりたい自分になる。夢に近づく

- ・社会福祉学科では、各コースの目的や意義、内容を「基礎演習」や「社会福祉入門」の授業内で説明し、個別相談に応じる体制を整備した。また、将来について具体的なイメージを持たせるため、卒業生による現場紹介を取り入れた。
- ・臨床心理学科では、コースの趣旨と絡め、学生が将来の具体的なイメージをつかめるように教示・議論するとともに、各学年とも秋学期に将来の進路への抱負と具体的な行動を発表し論議した。また、卒業生の進路実態資料を早期段階から学生に配付し、学生の将来に対するビジョンの向上を図った。
- ・健康科学科では、企業の安全衛生担当者による講演会や各コースの卒業生との情報交換会を開催し、学生を実学に触れさせることで、各コースの専門性とその担うべき業務の役割や責任を実感させた。
- ・福祉栄養学科では、ゼミを中心に教員と学生とのコミュニケーションを通して学生の将来ビジ

ョンの把握に努めた。また、各コースに対応したキャリア教育を実施し、学生の専門職への就職支援を行った。

- ・リハビリテーション学科では、両専攻とも基礎ゼミナール等を通して社会人基礎力を高める取り組みを実施するとともに、チューター制度をより有用なものにするため、チューターズガイドを作成して各チューターが一定以上の水準で学生支援できるよう工夫した。

5. カリキュラム改革

ワーキンググループ編成、実作業

- ・教職員 17 名によるワーキンググループを編成のうえ、8 月末までに平成 24 年度のカリキュラム・時間割改善原案を作成し、8 月の大学評議会及び 9 月の教授会にて承認された。その後、原案を基に、科目の更なる統廃合、新規科目の設定、科目名称の変更等の一層の精査を実施した。
- ・1～3 年次にわたり、段階的かつ継続的な学科ごとのキャリア教育科目の設定と内容検討を実施した。
- ・カリキュラムの構造化を目的に、カリキュラムマップ及び到達目標を科目ごとに設定するコンセプトマップを作成した。

6. 第 2 期（2013～2017）大学「中長期計画」の策定

- ・各学科・部署等より中長期計画の項目案を聴取し、中長期計画として適当な項目を精査のうえ、1 月 20 日理事会にて中長期計画のフレーム（枠組み）を、また、3 月 22 日理事会にて「第 2 期中長期計画（大学・短大）」（2012 版）が承認された。

7. 新基準における 2011 年度 自己点検評価の実施

報告書作成まで

- ・5 月に関係教職員対象に実施説明会を開催し、評価基準に沿って関係者によるワーキンググループを編成して、全学的な自己点検・評価の実施体制を整備した。
- ・評価基準は公益財団法人日本高等教育評価機構の新評価基準を準用し、「使命・目的等」「学修と教授」「経営・管理と財務」及び「自己点検・評価」の 4 基準、並びに本学の独自基準として「社会貢献」と「豊かな人間性の育成」の 2 基準について自己点検・評価を実施し、第 1 次原稿を作成した。
- ・平成 23 年度中に報告書の完成まで至らなかったため、平成 24 年度も継続して原稿確認・修正を行い、大学評議会の審議・承認を経て、報告書の発刊及び大学ホームページ上での公開を予定している。

8. 学風の醸成・高揚

高い志（夢）、笑顔、あいさつ、優しさ

- ・学生の夢を語り合う場として「Fukka 夢ボックス（ブログ）」を開設し、各学科の学生の「自分の夢」「夢の実現に向け取り組んでいること」「Fukka の魅力」を定期的に紹介している。
- ・教職員は、笑顔や挨拶、心やさしいマナーの励行を意識的に実践するよう心掛け、また学生に対しても授業やその他の日常的な場面において修得を促している。
- ・昼休みの時間帯に学生歌（「恵みの美空」）を校内放送し、学風の醸成・高揚を促した。

関西女子短期大学

1. ミッション（目的・役割）、教育力、学生生活・就職活動支援力の発信

- ・学募時の本学の情報発信を強化するため、出身高校別入学者動向資料の作成・活用、本学説明会資料の工夫、本学見学会の内容の工夫、高校訪問計画の戦略化、学科教員による高校訪問強化等、学募推進体制の再構築を図った。

- ・学園内高校への情報発信を強化するため、学園内高校対象説明会の内容充実と回数増加や、入試に向けての情報交換、学園内高校卒業生で本学在學生との情報交換会の開催等、学園内高校との連携を強化した。
 - ・受験者層を含む社会への情報発信を強化するため、本学ホームページ及び大学案内の全面リニューアル、テレビCM・交通広告・新聞広告の強化、ホームページ用動画の更新、パーソナル相談会の実施等の広報活動を強化した。
 - ・各種奨学金制度の充実による成果、更なる拡大等を検討し、対象校へやオープンキャンパス時の積極的広報を展開した。
 - ・本学の教育力を発信するため、各学科とも模擬授業の内容について、高校生が興味を持ち納得できる内容や理解度向上への工夫、実習・実技等の可視的、特徴的科目の選択等により、魅力的な模擬授業になるよう充実を図った。
2. 短大の使命、教育の理念、教育目的・目標ならびに教育の3つの方針の共有、徹底、実践
 - ・教職員においては、短大の使命等を主要会議で唱和し、意識的に共有を図った。また、各学科においては、3つの方針も併せて教授会や学科会議にて確認を行い、共有・徹底を図った。
 - ・学生に対しては、学生便覧へ記載しているほか、各種オリエンテーションやゼミ時、実習事前事後指導時等の機会、並びに「夢ノート」を通じて定着を図った。
 - ・教育目的・目標及びディプロマポリシーに対応する各学科の学習の成果を策定した。
 3. キャリアガイダンス（キャリア教育、職業教育）視点からの教育課程の再構築と夢ノートの充実
 - ・入学後の専門教育へのスムーズな導入を目的として、各学科の専門教育に関連する入学前教育を実施した。具体的には、学科共通で感謝の手紙、論理的文章学習、携帯電話を利用した漢字学習を実施した。また、学科別には、保育科ではピアノ個人指導、保健科及び歯科衛生学科では読書感想文並びに塗り絵で学ぶ人体解剖、医療秘書学科ではコース別の課題プリントを実施した。
 - ・コミュニケーション能力の向上やマナー教育の徹底等のキャリア教育全般について、「夢ノート」を活用しながら、ゼミ教育を中心とした指導を展開した。また、「夢ノート」については更なる内容の改善を図りつつ、その効果についても各学科で議論を展開している。
 - ・課程内職業教育として、学内外実習の更なる充実に向けて、コアカリキュラムの再検討や実習の到達目標ごとのルーブリックの導入、実習マニュアルの作成等について検討を着手した。また、課程外職業教育として、学科・コース別の就職ガイダンスや就職セミナーを実施した。
 4. 就職後の支援体制の構築と生涯学習の視点に立ったキャリア形成支援の充実
 - ・保育科では、8月に夏季セミナー「発達相談における保護者理解と支援～保護者と信頼関係を結ぶために～」を開催し、36名の参加があった。
 - ・保健科では、11月～2月にかけて卒後研修会（全5講）を開催し、合計で44名の参加があった。
 - ・歯科衛生学科では、10月にリフレッシュ講座（全4日）を開催し、合計で62名の参加があった。また、11月には研修会を開催し、126名の参加があった。
 - ・医療秘書学科では、診療報酬請求事務能力認定試験の研修会（全2回）を企画したが、事前申し込みはあったものの参加者はいなかった。
 5. 教育情報公開内容の一層の充実
 - ・教育上の目的に応じ学生が習得すべき知識及び能力に関する情報として、策定した学習の成果を公開した。
 - ・情報公開に係る更新必要項目ごとのスケジュール及び運用体制について検討し、効率的に運用するよう改善した。

6. 学生満足度の上昇をめざした自己点検評価の実施
 - ・平成 24 年度に一般財団法人短期大学基準協会にて第三者評価を受審予定であり、それに向けた自己点検・評価を推進した。自己点検・評価結果は報告書として取りまとめ中であり、平成 24 年 6 月末に同協会へ提出予定である。
 - ・学生の学習についての自己点検・評価においては、第三者評価の評価基準のキータームとなる学習の成果は教務委員会を中心に 12 月末に学科ごとに策定済みであり、学習の成果のアセスメントが今後の課題である。
7. 第 2 期（2013～2017）短大「中長期計画」の策定
 - ・本学の今後の発展に向け、各学科の検討課題事項についてその実現性や将来性等の調査を実施し、見解をまとめた。

関西福祉科学大学高等学校

1. 教育改革の推進
 - (1) 教職員の意識改革（スクラップアンドビルド）

昨年度実施した 5 項目の基本目標について、教員、生徒とも 1 年間を通じ意識を持って実践できた。その結果、生徒が校内で挨拶しているのを見かける機会が増えた。
 - (2) 3 コース制の推進

各コースでの特色をより明確に出し、コース独自の活動も含めた 3 コース制の推進を行った。特進 I コースでは昨年度同様の実績を残し、他の 2 コースでは学園内の強い連携もあり、学園内進学希望者が昨年に比べ増加した。
 - (3) プロジェクトチームによる新コース制の検討
平成 25 年度実施に向け検討中
2. 教育力の向上
 - (1) 授業アンケートの実施と活用

各教科会議を通じて「授業アンケート」の結果検証を行い、教科内で対策を検討し、授業の中で実践できるようになった。
 - (2) 高校生活満足度調査の実施と活用

生徒からの要望の多い事項について、内容を吟味し各担当部署で検討を行い、必要に応じて運営委員会に諮りその対応を検討、職員会議で内容を共有し、適宜対応している。制服については現在のものは変更せず、平成 25 年度入学生より変更。
 - (3) 教員研修の実施

私学人研での新任研修をはじめ、各教科より教育研修会に積極参加しその内容報告など、適宜教科会議で実施、研修内容の共有を図っている。
3. 生徒の基本的な生活習慣や学習の習慣について重点指導

特に基本の 5 項目を重点指導項目とする一方で、校外での通行マナーの向上のため通学路の巡回指導や考查中の国分駅周辺での下校指導を実施している。
4. 学校自己点検評価の実施

教職員と PTA による学校自己評価を今年度も実施、評価内容は昨年度とほぼ同様の結果がえられた。また、これらの評価内容をホームページでの公開準備を検討中。

5. 魅力ある学校行事の検討
平成 25 年度実施の新コース発足に合わせ、学校行事や生徒会行事の見直しを検討中。

関西女子短期大学附属幼稚園

1. 園児増を目指して魅力ある幼稚園の構築
 - ・未就園児の獲得のため、子育て支援「親子で遊ぼう！」の充実に努めた。
 - ・未就園児クラス、(びよびよクラス、ころころクラス)を設置し、より確かな獲得に努めた。
 - ・園庭開放、観劇会の充実に努め、近隣への広報に努め、開かれた幼稚園像のイメージ作りとした。
2. 保育環境、施設、設備の充実に努めた。
 - ・トイレの新設は計画通り完了し、園児、保護者に好評を得る。
 - ・施設リフォームの一部に関しては次年度への繰越となる。
(プールの補修、雨よけカーテン、庇の改修は次年度繰越)
3. 満 3 歳児クラスの増設、子育て支援の充実に努めた。
 - ・多数の申し込みを受け、好評を得る。次年度には、びよびよクラス増設となる。
 - ・保育環境は未完成。今後も整備の必要あり。
4. 教員の保育力の向上
 - ・各教員が必要とする研修に積極的に参加し、自己研鑽に努めた。
 - ・保育に必要な知識、技能を深めるため、種々の研修会に積極的に参加し、努力をする姿勢を感じた。
5. 効果的な広報活動の充実に努めた。
 - ・奈良県香芝市での知名度アップのため、香芝グラウンドに看板を設置した。
 - ・ファミリーデーが台風で2度も中止となったが、その都度、新聞折込でチラシを配布し、園児募集の効果を成した。
 - ・幼稚園近辺の案内が不十分のため、次年度への課題となる。

関西医療技術専門学校

1. 社会が求める人材の育成
平成 23 年度の卒業生については、国家資格取得をめざした 74 名のうち 96%がそれぞれめざした資格を取得することができた。また、6 名が進学し、75 名が就職して社会へ進出した。主な就職先は、病院、診療所、特別養護老人ホーム、老人保健施設の順で、ここまでで就職者の 92%を占めた。
2. 学習環境の整備・確保
平成 23 年度も、授業力の更なる向上を期して「授業評価アンケート」を行い、集計結果を各講師に報告した。また、教育環境改善に役立てるために「学生生活満足度調査」も行って、集計を検討し、改善を要する事項については関係方面に改善方を働きかけた。
3. 教育力の発揮
教育力の向上のために、全教職員を対象として平成 19 年度から開始した学内勉強会を平成 23 年度は 5 回開催できた。また、今年度は保健医療学会が当学園キャンパス内で開催されたので、これと一部共催しながら本校の学術大会も予定のとおり実施できた。なお、教職員自ら自己研鑽に励み、学会・研修会等に積極的に参加し、学会発表 21 題、掲載論文 20 篇を発信できた。

1. 経営体質強化事業

(1) 第1期（2008～2012）学園「中長期計画」の推進

学園の発展的継続を期して、平成20年11月に策定した「第1期（2008～2012）学園中長期計画～学園70周年記念事業～」について、平成23年度は修正改良を加え、「2011版 第1期（2008～2012）学園中長期計画～学園70周年記念事業～」として、計画実現に向け、各校園と連携し、実直に推進した。

(2) 第2期（2013～2017）学園「中長期計画」の策定

平成23年11月に策定された「学校法人玉手山学園 経営理念とビジョン」を基に、「第2期（2013～2017）学園中長期計画～学園創立75周年記念事業～」の法人本部部門の策定を行った。

「第2期（2013～2017）学園中長期計画～学園創立75周年記念事業～」において、法人本部では、「組織力向上」、「第2期中長期財務計画策定」、「予算執行最適化」、「予算制度実質化」、「財務分析実効化」、「キャンパス将来ビジョン策定」、「建物耐震補強」、「学園緑化推進」、「エネルギー節約推進」、「学園広報強化」に取り組む予定である。

(3) 財務基盤強化施策の確立

「財務比率表」、「キャッシュフロー計算書」、「自己診断チェックリスト」の作成を行い、一部情報共有を行った。また、本学に適した予算制度の確立として、平成24年度予算について、法人本部内において予算積算方法を統一して予算作成資料の提出を行った。

(4) 学園内職員育成システムの確立

平成23年5月、12月に平成21～23年度採用の新卒者及び希望者を対象とした「ビジネスマナー研修」、「ビジネス文書研修」を実施した。また、管理職マネジメント研修として、平成23年8月に「管理者向けメンタルヘルス研修」を実施した。

その他、平成23年11月に「インフルエンザ予防対策講座」、平成23年12月に「個人情報保護研修会」を実施した。

中堅職員研修の開講については、平成24年度の実施を目指す。

2. ブランド構築事業

(1) 学園70周年記念行事の実施

学園70周年記念行事・事業の広報宣伝小委員会の活動として、各所属と連携し、イベントニュースの第1～3号を発行、学園ホームページへバナーを設置し、70周年記念事業・行事一覧とイベントニュースを掲載した。また、各所属と連携し、フォトコンテストの募集も実施した。

寄付事業小委員会では、「寄付金募集事業」、「二上山登山」、「愛称・名称募集」、「三世代表彰」を各所属と連携し、円滑に推進した。

(2) 情報公開への積極的取組み

ワーキンググループを組成し、平成22年度事業報告書・平成24年度事業計画書の掲載項目・内容を検討、各所属からの原稿精査を実施し、学園ホームページへの掲載を行った。

平成23年度事業報告書も5月理事会・評議員会終了後、学園ホームページに掲載を予定している。

3. 教育環境整備事業

(1) 学園施設の中長期ビジョンの策定（キャンパスビジョン検討委員会（仮称）を設置し、学園施設の中長期ビジョンを策定する）

4月にキャンパス・フューチャービジョン・プロジェクト（CFVP）を立ち上げ、原則月1回の会議を実施した。平成23年度は計7回実施し、緑化計画とマスタープラン案（5-10年後）の図

面化を検討した。平成 24 年度も継続し、プランをより具体化し、耐震診断、新校舎、緑化など、優先順位も含めて計画を進める予定である。

(2) 環境問題への取組み

平成 23 年度省エネ対策委員会を 5 月に立ち上げ、平成 23 年度は計 4 回の会議を行い、省エネ具体策の検討を実施した。また、毎月の事務連絡会、所属長会で実績値を報告し、見える化・意識付けを推進した。

IV. 財務の概要（平成 23 年度決算の概要）

1. 資金収支計算書

(1) 収入の部

納付金収入は、学生・生徒数が前年度と比べ減少したため、前年度比 214 百万円減少、予算比 9 百万円減少の 3,597 百万円となりました。

手数料収入は、志願者数の増加により入学検定料収入が増加し、センター試験手数料等その他手数料も増加したため、前年度比 13 百万円、予算比 14 百万円増加の 85 百万円となりました。

寄付金は、「学園創立 70 周年記念事業募金」を本年度より行っており、前年度比 32 百万円増加、予算比 39 百万円増加の 39 百万円となりました。

補助金収入は、前年度比 27 百万円減少したものの、経常費補助金の増加により予算比では 120 百万円増加の 685 百万円となりました。

資産運用収入は、国内経済の長期低迷による預金利率の低い状態が続いており、運用資産の減少もあり、前年度比 9 百万円減少したものの、予算比では 7 百万円増加の 60 百万円となりました。

事業収入は、前年比では 10 百万円減少したものの、補助活動事業収入が増加し、予算比では 5 百万円増加の 53 百万円となりました。

雑収入は、前年度比 44 百万円減少したものの、退職金財団からの交付金収入により予算比 34 百万円増加の 101 百万円となりました。

前受金収入は、学生・生徒・園児の入学者数が当初見込みより増加し、前年度比 23 百万円増加、予算比 17 百万円増加の 770 百万円となりました。

収入全体では前年度比 128 百万円減少、予算比 300 百万円増加の 4,708 百万円となりました。

(2) 支出の部

人件費については、教職員数は学園全体では昨年より増員があったものの、人件費総額を抑制するという基本方針のもと、金額においては退職金支出が前年より多く、前年度比では 112 百万円増加したものの、予算比 143 百万円減少の 3,114 百万円となりました。

経費については、前年度比で管理経費が 7 百万円減少したものの、新学部の教育研究経費支出が加わったため合計で 91 百万円増加しましたが、予算比では各部門における削減効果が大きく教育研究経費、管理経費合計で 85 百万円減少の 1,320 百万円の支出となりました。

施設、設備関係支出については、大学新校舎建設関連の支出が 591 百万円あり、前年度比では 84 百万円増加しましたが、予算比では 18 百万円減少の 923 百万円となりました。

(3) 繰越支払資金

上記の結果、法人全体として期中の支払資金は前年度より 917 百万円減少の 5,513 百万円となりましたが、減価償却引当特定資産への繰入支出 288 百万円差引後の支払資金です。

2. 消費収支計算書

(1) 消費収入の部

資金収支計算書・収入の部と同様、納付金・補助金・事業収入等が減少したものの、手数料・寄付金・雑収入の増加等の要因により、帰属収入の合計は前年度比では 146 百万円減少、予算比では 230 百万円増加の 4,650 百万円となりました。

大学新校舎建設等による基本金への組入が 856 百万円あり、消費収入合計は前年度比 286 百万円減収、予算比 307 百万円増収の 3,793 百万円となりました。

(2) 消費支出の部

資金収支計算書・支出の部と同様、人件費については前年度比 30 百万円の増加となったものの、予算比では 221 百万円減少の 3,054 百万円となりました。経費については新学部の経費が加わり、

前年度比 120 百万円増加となったものの、削減効果により予算比では 69 百万円減少の 1,834 百万円となり、消費支出合計では前年度比 150 百万円増加、予算比 299 百万円減少の 4,895 百万円となりました。

(3) 消費収支差額等

当年度消費収支差額は予算では 1,707 百万円の支出超過でしたが、収入増と経費の節減効果により支出超過額が 606 百万円減少し、実績では 1,102 百万円の支出超過となり、翌年度繰越消費収入超過額は 321 百万円となりました。

なお、帰属収支差額は 245 百万円の支出超過となりました。

◆◆◆主要財務比率の経年比較表◆◆◆

	算式(×100)	H22 年度 (決算)	H23 年度 (決算)	前年度比	(ご参考) 全国平均※ (H22)
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	63.1%	65.7%	2.6%	52.9%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{納付金}}$	79.4%	84.9%	5.5%	72.0%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	25.3%	29.0%	3.7%	30.9%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	10.4%	10.5%	0.1%	8.8%
帰属収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	98.9%	105.3%	6.4%	95.6%
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	116.3%	129.0%	12.7%	110.5%
学生・生徒等納付金比率	$\frac{\text{納付金}}{\text{帰属収入}}$	79.5%	77.4%	△2.1%	73.4%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	14.8%	14.7%	△0.1%	12.4%
減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却費}}{\text{消費支出}}$	10.2%	10.5%	0.3%	11.5%

※大学法人(医療系法人を除く)全国平均「平成 23 年度版 今日の私学財政」より

3. 貸借対照表

(1) 資産の部

固定資産については、大学新校舎建設関連の当年度支出として 591 百万円、新学部関連教育研究備品として 209 百万円等を計上し、合計で 415 百万円の増加となりました。

また、その他の固定資産として減価償却引当特定資産が 288 百万円増加し、固定資産合計では 619 百万円の増加となりました。

流動資産の減少は、新校舎建設関連支出による現金預金の減少によるものです。

以上の要因により、資産の部合計は前期末比 273 百万円減少の 23,545 百万円となりました。

(2) 負債の部

退職金規定の改定に伴う退職給与引当金の減少により、負債総額は前期末比 28 百万円減少し、総額 1,881 百万円となりました。

(3) 基本金の部

大学新校舎建設等による1号基本金組入に対し、備品の過年度簿外処理分の減額もあり、全体では852百万円の純増となりました。

(4) 消費収支差額の部

消費収支計算書の部で述べたように、翌年度繰越消費収入超過額は、前期末比1,097百万円減少し、321百万円となりました。また純資産は前期末比245百万円減少の21,664百万円となりました。

4. 今後の課題

少子化の影響による収入減の中、平成23年度決算において帰属収支差額が支出超過に転じ、245百万円の支出超過となりました。

今後の課題としては前年比においても学生・生徒数、志願者数とも減少傾向にあり、学生・生徒等の募集をどのように行い、学生・生徒等を確保するかが喫緊の課題です。

教育の質の向上、学生サービス向上のためのハード及びソフトについての投資は引続き積極的に推進するため、不要・不急の支出は抑え、財務状況の改善を目指します。

管理運営体制においては内部統制及び内部牽制の一層の強化を図ります。

学園創立70周年に向けて策定された「中長期計画」、及び平成25年度からの「第2期中長期計画」に基づき、学園経営体質の更なる強化を図りながら経理執行を行い、計画の達成を推進します。

【資料編】

関西福祉科学大学

1. 平成 23 年度進路状況

(単位：名)

	全体	社会福祉学部		健康福祉学部	
		社会福祉学科	臨床心理学科	健康科学科	福祉栄養学科
卒業者	558	265	123	80	90
就職希望者	462	238	66	72	86
就職決定者	451	233	61	71	86
就職決定率	97.6%	97.9%	92.4%	98.6%	100%
進学希望者	27	2	20	3	2
進学決定者	25	2	18	3	2
進学率	92.6%	100%	90.0%	100%	100%

(平成 24 年 5 月 1 日現在)

2. 平成 23 年度資格取得状況

(単位：名)

学部・学科・専攻科		社会福祉士	精神保健福祉士	保育士	第一種衛生管理者(単位取得者)	管理栄養士	栄養士	フードスペシャリスト	養護教諭一種免許状	栄養教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状「公民」	高等学校教諭一種免許状「福祉」	高等学校教諭一種免許状「保健」	中学校教諭一種免許状「社会」	中学校教諭一種免許状「保健」	特別支援学校教諭一種免許状(単位取得者)
		社会福祉学部	社会福祉学科	76	16	44							3	3		3
	臨床心理学科		2								1			1		
健康福祉学部	健康科学科				73				66				13		12	
	福祉栄養学科					67	85	41	7							
特別支援教育専攻科																9

※現役での取得者数

(平成 24 年 5 月 1 日現在)

関西女子短期大学

1. 平成 23 年度進路状況

(単位：名)

	全体	保育科	保健科	歯科衛生学科
卒業者	267	82	86	99
就職希望者	246	72	84	90
就職決定者	241	72	81	88
就職決定率	98.0%	100%	96.4%	97.8%
進学希望者	3	3	---	---
進学決定者	3	3	---	---
進学率	100%	100%	---	---

(平成 24 年 5 月 1 日現在)

2. 平成 23 年度資格取得状況

(単位：名)

学科	歯科衛生士	保育士	幼稚園教諭二種免許状	養護教諭二種免許状	中学校教諭二種免許状「保健」	社会福祉主事任用資格
保育科	/	77	78	/	/	82
保健科	/	/	/	36	20	36
歯科衛生学科	92	/	/	/	/	99

※現役での取得者数

(平成 24 年 5 月 1 日現在)

関西福祉科学大学高等学校

1. 平成 23 年度進路状況

(単位：名)

	全体	特別進学 I コース	特別進学 II コース	総合進学コース
卒業者	182	13	133	36
進学希望者	175	13	123	29
進学決定者	163	13	121	29
進学率	93%	100%	98%	100%
就職希望者	7	0	4	3
就職決定者	4	0	3	1
就職決定率	57%	—	75%	33%

(平成 24 年 5 月 1 日現在)

1. 平成 23 年度進路状況

(単位：名)

	全体	理学療法学科	作業療法学科	介護福祉学科	診療情報管理学科
卒業者	84	30	24	20	10
就職希望者	78	30	24	17	7
就職決定者	75	30	24	16	5
就職決定率	96%	100%	100%	94%	71%
進学希望者	6	0	0	3	3
進学決定者	6	0	0	3	3
進学率	100%	—	—	100%	100%

(平成 24 年 5 月 1 日現在)

2. 平成 23 年度資格取得状況 (単位：名)

学科	理学療法士	作業療法士	介護福祉士	診療情報管理士
理学療法学科	28	/	/	/
作業療法学科	/	23	/	/
介護福祉学科	/	/	20	/
診療情報管理学科	/	/	/	/

(平成 24 年 5 月 1 日現在)